

女性の視点からの

防災対策のすすめ



日頃の備えと

少しの工夫

風水害や地震などの災害は、いつ起こるか予測が難しいだけでなく
起こった場合は、誰もが被害を受けます。

このリーフレットは、女性の立場から

避難所生活での工夫や日常の備えについてまとめたものです。

令和6年5月

喜多方市

もしもあなたの地域で災害が起こり、 避難所生活をするようになったら・・・

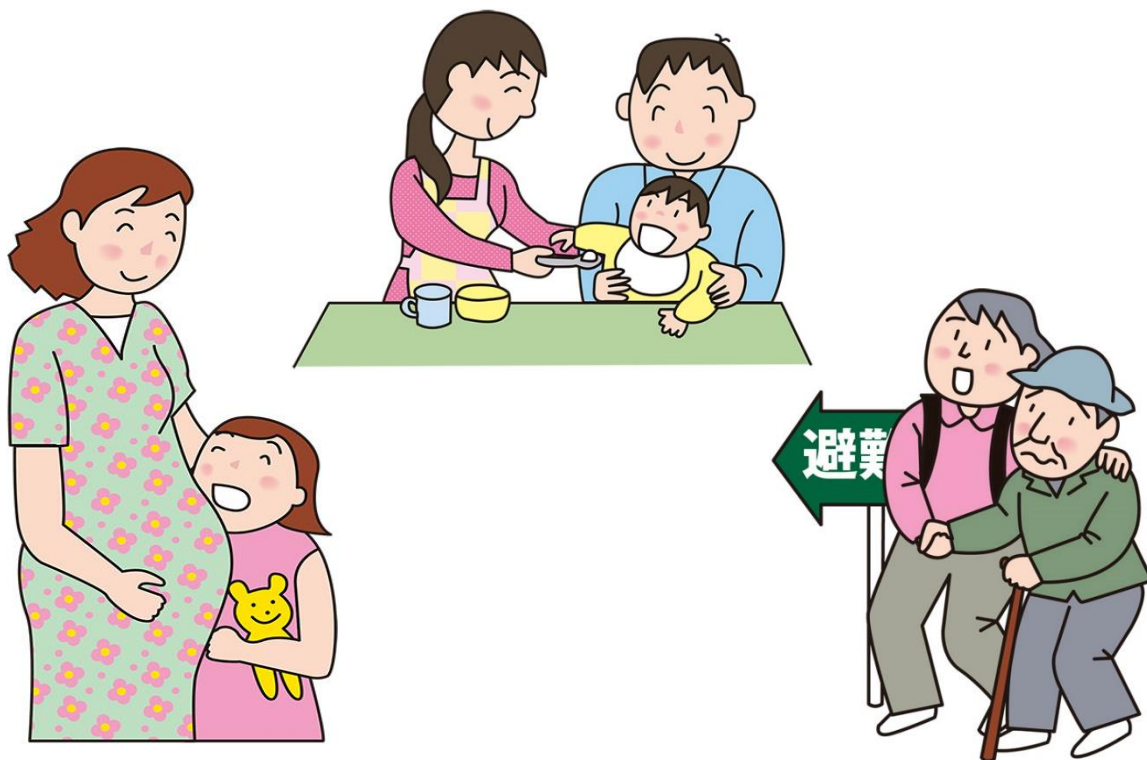
安全・安心・快適な空間を確保しましょう。

避難所では、限られた空間で多くの人々が集団で生活することになります。

被災者が、更なる二次災害を受けることがないように、次のような工夫を図ることが必要です。

- 一人暮らしの女性や高齢者・障がい者、乳幼児のいる家族の被災者の状況に応じ、間仕切りをするなどの配慮を行い、快適な居住スペースの確保に努めましょう。
- 仮設トイレの設置にあたっては、特に女性や子どもの安全・安心に配慮した場所や通路を確保しましょう。
- 男女別の更衣（又は化粧）スペースを用意しましょう。
※女性用化粧室には、鏡や女性用品を準備しておくくと便利です。
- 女性用洗濯物の干し場を確保しましょう。
- 乳幼児のいる家族に配慮した授乳スペース・育児スペースを確保しましょう。
- 女性や子どもへの暴力を防止し、心身の健康を守るために、女性や子どものための相談窓口を設置しましょう。
- イベントの開催や、誰もが利用できるフリースペースを確保し、心身のリフレッシュやストレス解消を図りましょう。

このような空間を確保することで、被災者同士のプライバシーや、特に女性の安全・安心が守られることになります。



みんなで共同して作業をしましょう。

過去の災害発生時の経験では、男性は早い段階で職場に復帰する一方、不便な生活環境下での家事や育児などの家庭的責任に対する負担が、女性に集中してしまいました。このような事態がおこらないよう、避難所内外での作業をみんなで共同することが重要です。具体的には、次のような作業が考えられます。

- 食事の準備や片づけ
- 物資の配布等
- 共有スペースやトイレの掃除
- ゴミの処理
- 行政との連絡
- 防犯（見回り）
- イベントの企画及び開催
- 家の片づけなどの復旧作業 など

共同作業のポイント

- 個人の能力・才能・特技を生かしましょう。
- 一つの活動（作業）において、性別が偏らず、男女がともに活躍できるようにしましょう。
- みんなが公平に作業を行えるようローテーションを組みましょう。
- 日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるようにしましょう。

みんなで作業を共同することで、被災者がお互いの活動を評価し、尊重しあえるようになります。



男女のニーズの違いに的確な対応をしましょう。

刻々と変化しつつある状況に柔軟に対応していくために、常に被災者のニーズを把握するよう努めましょう。

避難所の運営のあり方を決める際にも、被災者の声を幅広く聞き入れることができるような工夫をしましょう。

- 避難所運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- 生活者の視点に立ったニーズが把握できるよう女性の意見を積極的に聞きましょう。
- 避難所生活や生活再建などの問題でストレスを抱えた人々のために、避難所内に各種相談窓口や意見箱を設置しましょう。
- 被災者が求める情報が正確に、避難所のすべての人にわかりやすく伝わるよう、伝達方法を工夫しましょう。
- 女子が日頃から培ってきた地域の人的ネットワークやご近所づきあいなどの地域コミュニティを活用し、被災者の安否確認や避難所での声かけを行いましょう。

いつ起こるかわからない災害に備えて・・・

女性が地域防災に担い手として活躍できるよう
日頃から女性の参画を図るようにしましょう。

防災訓練や防災に関する学習会などを積極的に行い参加しましょう。

性別や年齢を問わず、誰もが災害時に活躍できるよう、日頃から地域で応急手当や避難時に必要な防災機材の取り扱い方の学習会などを開催しましょう。

こうした学習会などを通じて、防災に対する共通の認識を持つことにより、地域コミュニティの一員として重要な役割を担うことができるようになります。

開催のポイント

話し合いや学習会は、地域で定期的
に開かれるイベント（祭り・運動会など）
と連携して行くと、より多くの人に参加
してもらうことができます。



防災・災害復興の分野への女性の参画を推進し、防災活動の活発化を図りましょう。

防災・災害復興対策や方針決定の場、消防団や防火クラブ等の防災組織、行政区や民生委員等の地域コミュニティへの女性の参画を積極的に進めましょう。

女性が防災・災害復興の分野へ参画することにより、地域の防災力の活性化が図られます。

男女がともに支えあう地域づくりに努めましょう。

緊急な災害時においても、男女が共同して災害復旧に対応できるよう、常日頃から、家庭や地域、職場などでの男女共同参画を実践し、男女がともに支えあう地域づくりに努めましょう。



突然発生する災害にも、
慌てずに対応できるよう
まずは、防災用品のチェックから！

令和6年5月
発行者/喜多方市
市民部危機管理課
TEL0241-24-5221